

令和7年度第1回津軽広域懇談会 会議録概要		
日 時	令和7年9月25日（木）14時～16時10分	
場 所	平川市役所4階大会議室2	
出席者	委員（8名）	森座長、樽澤委員、石山委員、野呂委員、吉田委員、佐藤（聖）委員、佐藤（和）委員、阿保委員
	事務局（4名） （津軽広域連合）	高山事務局長、福井総務課長補佐、菊池主幹兼総務企画係長、菅井主査
会議概要		
1 開会 2 事務局長挨拶 3 議事 （1）津軽広域連合ソフト事業について （2）その他 4 閉会		
【各委員からの意見等】		
※ホームページ掲載時は個人名を伏せて「委員」と表記します。		
座長	それではここからは、順番にご意見を伺いたいと思います。 まずは1番目の体験教室、そして名人・達人バンク事業について、ご意見いただければと思います。 先ほど、冊子の印刷等についてもご意見いただきたいという説明もありましたので、それも含めて、何かご質問・ご意見あればお願いします。	
委員	最初に資料を事前にもらった段階で気づいたことがあり、今までは実施報告がシンプルにまとめられていたのが、今回の資料は大分検証まで進んでいるように思いました。 例えば昨年度実施した事業について、前回の会議で出た課題に対してどういう取り組みをして実施したか、さらに事後のデータ分析と、次の案まで出ていて、この点についてアイデアが欲しいという部分まできちんと載っている資料だったので、非常に良いことと思いました。検証まで、という意欲は連合の中でも共有していただいて、ぜひこのままの形で進めていただければと感じました。 最初のものづくり体験教室ですが、（名人・達人バンク）名簿の印刷についても関連すると思いますが、体験教室の時に参加者の方に名簿を配っているのでしょうか。	

事務局	1人ずつではなく、受付に設置してご自由にどうぞ、という感じでした。前は小学生対象でしたが、親御さんが見る場合もあるので、という感じで1人ずつには配ってはいませんでした。
委員	冊子は結構コストがかかりますし、体験教室自体がこのバンクの事業を活用するものなので、簡単に一覧になったようなペライチのものでよいので教室の参加者に配るなど、一部、軽い媒体を取り混ぜて全体のコストを下げる、でも届く人は増える、といった施策があっても良いのではと感じました。
座長	ありがとうございます。節約の仕方という部分で、冊子でなくても伝わるものは伝わると思います。
委員	昨年のランタンキャンドルのチラシを見て、圏域外の市町村の方が応募してしまったと聞きました。よく見たら（8市町村在住と）書かれているのですが、最初に見たときにわかりづらかったのが、今回は地域がはっきり書かれていて、とても見やすく改善されたと思いました。 それとこの体験には、講師の方にも講師料が支払われますよね。それと例えば材料費というのは、今年の陶芸教室だと大体幾らくらいになりますか。
事務局	参加料が全て材料費になります。
委員	それでは体験自体は上限の設定はほぼないですか。 例えば2000円ぐらいで体験できるようなものを考えていくとか、別に金額は関係なく考えているとか。
事務局	まずは、90分という時間の中で作れるものということで講師にご相談して、90分あればこれぐらいの材料費でこれが作れる、ということでそれが参加費として設定されます。
委員	わかりました。であれば今回のレザークラフト体験、すごい人数ですよ。これが今年度最後ですか。
事務局	12月にもう1回あります。

委員	わかりました。全体的に今年は良くなっていているのがわかります。
座長	陶芸教室の参加者を見ると弘前市からの参加が圧倒的に多かったですけど、板柳でやっているけど、板柳の参加が少なかったのは理由があるのでしょうか。
事務局	板柳の小学校には全員に配布しましたが、板柳の方は、普段から自分で行かれています方が多いのではと思いました。
委員	板柳に住んでいる方はもう馴染みがあるものだというふうに認識あるのか、それとも、伝え方をもう少し工夫した方が良かったのか、率直に思いました。
委員	地元の方は体験済みか、もしくは、いつでも思いついたら行ける別の機会があるので、行かないのだと思います。
委員	前回までお話しさせていただいたことが、資料を拝見するとすごくクリアになっていて、津軽広域連合で何を目標せばいいのか、土台となるところをしっかりお示しいただいたので、これから目指すべき方向性とか、自分が話していく時にも皆さんで共通認識を持ちながら、非常に話しやすくなったと感じました。 バンクの話になると、名簿は紙で作るという話もありましたが、名簿は多分デジタル化しても良いのではと感じました。あと、なぜ名人・達人バンクがそもそも必要なのかと考えた時に、学びという教育的な視点のところと、観光であったり、地域産業との接続の部分の価値をどうやって普及させていくのか、というところで紙媒体が良いのかという話になると思うのですが、もし切り分けるとすれば、データベース的な要素のところはメディアとして扱っても良いのでは、と感じました。 先ほど、ペライチでも、という話がありましたが、グラフィックとか見せるものとしての魅力の部分とデータベースという部分を仕分けして情報を作り直しするのもありかと思いました。 そもそも今まで、津軽広域連合がなぜソフト事業をやっているのかという、行政サービスとの接続の部分で理解しきれない部分があったのですが、資料に出てくる地域産業の有効活用とか可能性であった

	り、ここに住む人たちが、地域の価値とか、生活していく価値を再発見してもらうということが共通の目的として、その視点に立った時に、この地域に生活する幅広い年齢層の人達に還元するという意味で津軽広域連合のビジョンに照らし合わせて考えていけば良いと感じました。
座長	ぜひこれらのご意見を考慮していただければと思います。 ものづくり体験教室事業については以上とさせていただきます、次はふるさと探訪バスツアーについてご意見等ありましたらお願いします。
委員	①と②（ものづくり体験教室とバスツアー）にも関わってくると思いますが、2点ありまして、1つ目は今までの会議でも意見が出ていたと思いますが、参加者の年代が少し高いかなと。平日の実施が多いので、働いている世代の方達はどうしても参加が難しいのかなと思いました。SNSを活用したとしてもやっぱり日程が合わないに参加は難しいので、このテーマ、このツアーに関しては30代に来て欲しいから、こういうテーマや内容にしようとか、広域連合の事業は幅広い世代についてのものだと思うので、若い年代に合わせたやり方とか内容もやってみてはどうかと感じました。 もうひとつは、先ほど委員からお話がありましたが、そもそもなぜこの事業をやるのか、という部分を自分で整理していたので理解が深まったのですが、例えば板柳のイベントに弘前の人 came された際、普段と違う場所に出かけているので、その町についてなど学びの時間になれば良いのかなと思いました。シードルを例にすると、イベントだけで終わらずに、こういう事情があってシードルが作られていて、シードルはここで買えます、今回講師をしてくれた方のSNSはここから見れます、などの情報と一緒にすると良いのでは。今回の場合だと、例えば午前中に終わるイベントなので、終了後、板柳のランチのおすすめなどの情報があれば、子供と一緒にしてみようと思ってくれたりするのでは。一過性にならないように、学びの場と次につながる動線づくりみたいなことをやっていくと良いのではと思いました。
座長	一過性で終わらない、次につなげるということはすごく大事だと思います。
委員	バスツアーについてですが、以前は2回やられていましたが、今は

	1 回だけなので、どこかの年代にターゲットを絞らないと難しいですよ。だから最近では、リタイアして平日に時間があるご年配の方がメインのツアーになってしまっていると思います。なので、若い方達はまったくこれとは違うコースで作っていく方が良いのかなと。今後、以前のようにバスツアーを 2 回実施するという可能性はあるでしょうか。
事務局	バスの価格が高騰しているため、今後年 2 回やるというのはなかなか難しいとは思いますが、今後、例えばものづくり体験教室の 1 回分の予算を使って、若い方向けにバスを使わない、街歩きのようなことはできるかもしれません。
委員	特にバスの値段は 2 倍くらいになってしまいましたよね。 わかりました。ありがとうございます。
座長	ターゲットを 2 つ設定してみるのも有りでは、ということでした。
委員	屋食場所に関してですが、小さな町は駅前から徒歩圏内で行ける駅前のカフェ、食堂など、10 分～15 分歩けば入れる店が結構あるので、同じ場所に何十人も詰め込むのではなく、それぞれ好きなお店に入ってもらうのも 1 つの方法だと思います。 あと、昔からある歴史とか建物とか風情を感じられるツアーを計画していただけると少し充実した感じになるのでは、と思います ただターゲットについては、年配の方というよりは、20～30 代ぐらいの方々が、今すごくレトロとか古いもの、なかなか見られないようなものという感覚で街歩きする方が結構いらっしゃるの、そういった方をターゲットにしても良いのではと提案させていただきます。
委員	ターゲットが決まってからの話にはなと思いますが、バスツアーのバス車内での雰囲気というのはどういった感じでしょうか。
事務局	バスガイドも依頼しているのですが、バスガイドの方が訪問先の話上手にしてくれて、飽きさせない雰囲気を作り出してくれていたの、バスの中は和やかな感じでした。参加者アンケートでも、バスガイドさんが良かったという声が多くありました。

委員	ガイドさんや、語り部みたいな方に伝えてもらえたら良いと思っていて、例えばバスツアーに名人・達人バンクに登録している講師の方を起用するとか。演劇とかで頑張っていらっしゃる団体さんもいるので、現地で寸劇を見ながら、歴史を学びながらなど、そういう方がいれば良いと感じました。
座長	寸劇というかいろいろ見れるもの、出し方などもあるような気がします。
委員	達人バンクで難易度が星の数で表されていますが、何年生向け、という表記があれば選びやすいと感じました。誰に向けたものなのか、対象や年齢など少しわかりづらい部分もあったので、連絡先もできれば窓口など連絡しやすいところがあればと思います。
委員	バスツアーだけではないかもしれませんが、先ほどの話と関連して、広域連合だからできる価値というのが、このバスツアー自体が巡って歩くというもので、地域を串刺しにすることが広域連合のバスツアーの価値として設定されていると思いますが、もう少しテーマ性というところを訴求すれば一般のバスツアーと差別化できるので、広域連合だからという軸をもう少し解像度をあげてもいいのかなと感じました。地域の観光資源を再発見するとありますが、もう少し具体的にテーマ設定をすると、例えば農産物とか農業とかいうのを各地域の農みたいなものでツアーを作るとか、生活文化や古くからある、埋もれているみんなが知らないような文化をめぐるとか。あるいは健康をテーマにするとか。 あと考えたのは、地域ごとに学校教育関係が行う学校向けのプログラムとか。地域の学校がやっていることは実は一番地域に根差すように開発されていると思うので、それを大人が見られるように、教育向けプログラムを観光産業に転換させてみるとか、教育プログラムから観光産業へつなぐ役目も広域連合だからこそできるのではと思いました。
座長	確かに学校でやっているものを大人向けにやるのも1つの方法かもしれないですね。各地域でやっていること、例えば弘前の卍学などを他の地域の学習に生かしたり、お互い学びあうことにもつながるかもしれませんね。

委員	見学する際、説明してくれるガイドがいて中まで入り込むと、深掘りができてすごくおもしろいと思います。
事務局	今回のバスツアーでも、ガイドの説明があったところは、満足度が高めになっていました。
委員	地域で色々イベントを考えるときには関係人口というものをテーマにしてやっているのですが、先ほど委員さんがおっしゃったように1つのもので終わらず、いかに地域にお金を落としていってもらうか、ということ考えた時に、バスツアーしながら街並みを見せるだけでなく、直売所に立ち寄っていただいて、そこで特産物を買っていただくとか。そういった流れを作っていただければ、その地域に根付いた歴史文化も学びつつ、特産物も買っていただくことで地域活性化にもつながっていくのではないかと思います。
座長	前に特売所を巡るツアーで皆さんたくさんお買い物されたと伺いました。
委員	ターゲット層についてですが、対象年齢は設定されていますか。
事務局	特に対象年齢は設定していないのですが、実態としてご年配の方の参加が多いので、その方たちに配慮するように時間設定などしていました。
委員	今後もその辺りの年代を対象としたバスツアーを組んでいく予定でしょうか。
事務局	一応、対象年齢を設定してないとは言え、実態としてご年配向けにはなっていると思いますが、今後津軽広域連合を知ってもらうという意味では、もう少し若い世代の方にも参加していただけるツアーも考えていければと思っております。
委員	もし今後若い世代もターゲットに想定するのであれば、「ふるさと探訪バスツアー」を、例えば「ふるさと探訪ミステリーツアー」など名前を変えるだけでも、若い世代に刺さるのではと思います。内容は同じでも、文化歴史も絡めた説明があると、楽しんで謎を深められる

	バスツアーになると思います。 全年齢が対象になるとは思いますが、ミステリーツアーだったりバスツアーだったりという取組があってもいいのかなとは思いました。あと、例えば 20 代から 30 代向けとか、60 代から 70 代とか区切って募集するとか。
委員	時間とお金、時間に余裕があるとなると、どうしても年齢が高くなってしまいますよね。子育て中の方が子どもと一緒に参加できるようなツアーであれば、これとはまた別の企画の方が良いのかもしれないね。親子で体験しながら、親子で食べれるとか。
座長	それでは次の連合だよりの発刊事業と広域情報発信事業、まとめてご意見いただければと思います。
委員	そもそも SNS と資料の中に出てきますが、広域連合としてどれだけ活用していきたいか、という方針があれば真剣に考えてもいいですが、今あるものをより充実させるということであればそんな急ぎで考えなくても良いのではと思います。さっきのバスツアーの話でいくと、高齢者が多いというところで SNS での周知度の低さとありますが、一歩引いた目線で見たと時に、このツアーを逆に考えると、応募の形も年齢に合わせてハガキにして、結果これだけの応募が来ているのは、この年齢層に対するバスツアーとしては成功しているので、むやみに変えなくてもいいのではという見方もできると思います。 先ほどからの話でも、若い年齢層に対しては別に考えた方が、今あるものを崩すよりは考えやすいのでは、と思います。 色々委員さんからたくさん話が出てきましたが、個人として良い体験してきたなと思うのは、帰った後にうんちくで誰かに話すことがあるかどうか。お酒を飲みながら、そういえばこれ知ってる？という話を人にする時は、自分で良い体験をしたと思っている時だと思います。その延長で、若い世代はそれを SNS で発信したくなる、という部分があると思います、みんなに知ってほしいという。なので、若い世代向けの事業を考えるのであれば、バスツアーにこだわらずに、例えばこのあとの写真展とか、要するに SNS でやりたいのであれば SNS を使わなきゃいけないようなものを考えた方が、アイデアとしては出しやすいと思います。例えば、現地集合して、この場で皆さんで 3 時間写真撮ってください、それでいったん解散して昼食を取っている

	間に写真を SNS にあげて、みんなで見れるようにするなど、コンクールまではいかないですけど、SNS で必ず見るきっかけになるようなものありきで作るというのも有りだと思います。 今あるものを充実させるという点で、高齢者向けのバスツアーも先ほど言ったようなうんちくになるような、その場所ならではの体験とか、子どもが体験しているものを大人が今やってみるとちょっとした小話のネタになると思います。ご年配の方には SNS の代わりに井戸端会議という場があるので、そこから広がるというのもリアルにあると思います。 現時点でフォロワーの数とか見ても、多分広域連合の事業は今はまだ1人の価値が大きいと思うので、いきなり広げるというよりは地道な活動を1つ1つ、と増えていくだけでも結構着実に増えていくと感じます。 今やっているやり方で合っていればそこは残して、SNS で発信というのであれば、そこは若い世代に取り入れられるよう施策を考える形の方が良いと思いました。
座長	誰に届けたいのかというところが明確であればどの方法を選択するのかということだと思います。 確かにバスツアーを見ると、届けたい方に届いているという意味ではうまくいっているという、そういう考え方もあると思います。
委員	連合だよりの話になりますが、連合だよりのところに各事業を周知するための広報誌として発行されていると書かれていて、津軽広域連合の活動自体が周知されていないのが課題としてあるなかで、この連合だよりを作成するなかで、ある程度ブランド形成というか、こういうことを資するという目線で取り組んだほうが、せっかく冊子として作っているのが良いのではと思います。イメージを伝えるために、中の情報はあまり変わらないので、要素としては先ほど言ったように PDCA を回してちゃんと整理していった方がいいなと思っていました。この連合だよりの中で、たくさんのフォントが使用されていて、すごい色とりどりになっていますが、これを整理するだけでも変わるのかなと思います。 先ほど言ったブランドイメージみたいな、まず津軽広域連合というところからお手紙がきたというイメージ統一をした方が良くないと思っていて、そのうえで、バスツアーとか作れば良いので、顔は整えて同じ

	顔で作っていけばいいのかなと思いました。 あと名前ですが、広域連合という、1つじゃなく8つの津軽をつないでいるということを広域連合さんがやっていることだとしたら、何をやっている団体なのかという事を一言であるといいなと。インナーコミュニケーションにも、外に向けても良いような、例えば8つの町とか、8つの津軽をつなぐみたいな言葉とか、何かしら団体を表すような言葉があるとわかりやすいかもしれません。 ブランド形成という意味ではそれを「津軽圏」と呼んでしまって、津軽圏を何とかするみたいな。バスツアーを周知する上段のものとして、1個必ず持っている、ここの団体で何をやっているのかっていうことで意味が出てくると思います。
委員	この連合だよりを見ると文字数が多いので、見る人によっては文字多すぎるなって思ってしまうのかなって感じていました。 それと、今までバスツアーなどとても良い事業をやっていますが、ただ写真だけで終わってしまうのはもったいないなと思っていて、簡単でいいので、動画、QRコードを入れておくだけでもいいので、こういう事をやっていたということでイメージがしやすいのではと。写真だけでなく動画があることによって、もっとわくわく感が伝わってくると思い、次の事業にもつなげていけるのではと考えていました。
座長	動画とかでつないでいくと、動きが出てきてまた面白いと思いますし、年齢層も下がるかもしれませんね。
委員	自分はこの連合だよりは少女漫画を見るような感じで、小説も読めますし、こういうのもすごくポップで良いと思います。
座長	それぞれの方の好みがあると思うので、どういう方に向けてということを考えていくと良いのではと思います。
委員	例えばバスツアーの紹介を見開きでなく片側1枚にまとめて、他の紹介をもう片側にすると少しスペースができると思います。 (議事2 意見等なし) (閉会)

